

2024年4月25日

ここ数年の社会変化を踏まえた生活者の暮らしへの影響と、意識変化を調査

## 「生活者の暮らしにおける価値観変化調査」レポートを公表

- 大きな社会変化が起きる前と比較し、生活者を取り巻く環境の変化が与える「暮らしのあたりまえ」への影響を考察
- 生活者の「関心と行動」「ストレス・不満」「生活の質」に着目し、意識変化を分析
- 4月19日に発売した「SMART STYLE Roomie」新タイプの提案に、本調査結果を反映し住環境の向上に寄与



調査レポート表紙

ミサワホームグループのシンクタンクである株式会社ミサワホーム総合研究所（本社 東京都杉並区／代表取締役社長 千原勝幸）は、大きな社会変化が起きる前と今を比較し、生活者を取り巻く環境が変わりつつある中、暮らしを求める価値観はどのように変化しているのかを調査し、「暮らしにおける価値観変化調査」としてまとめ、4月25日より同社HPで公開しましたので報告します。

生活者を取り巻く環境はここ数年、新型コロナウイルス感染症のほか、世界各地での紛争や気候変動、大地震、資材高騰、株価上昇など、「暮らしにおける価値観」を変えるような出来事が立て続けに起こっています。環境が大きく変わりつつある中、生活者の暮らしのあたりまえはどのように変わる可能性があるのか、住まいに求める価値はどう変わるのか。今回は、生活者の <関心と行動><ストレス・不満>という現状認識の観点と、<生活の質>という、生活者がどのようにくらすことができれば満足か、という欲求レベルを明らかにすることで「暮らしの価値観」および住宅市場への影響をはかりました。本調査の結果は、4月19日にミサワホームが発売した「SMART STYLE Roomie」新タイプのプロダクトコンセプトや空間提案に反映されており、住環境の向上に寄与しています。

### ■ 調査レポートはこちらから

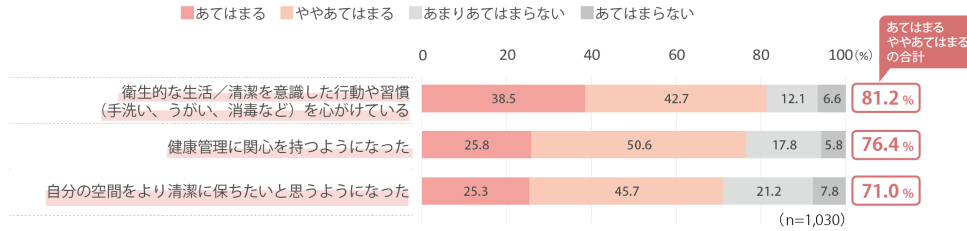
「LIFESTYLE VALUES REPORT 2024 暮らしにおける価値観変化調査」（2024年1月に実施した調査）

<https://soken.misawa.co.jp/news/20240411/3446/>

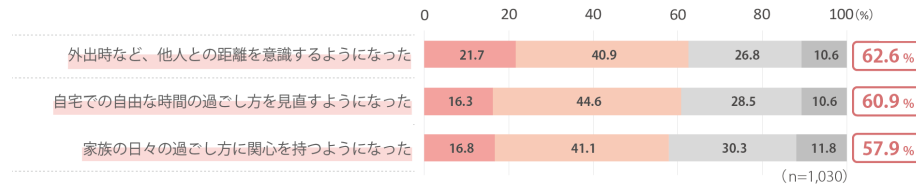
## ■ 調査結果の概要

### <関心と行動> 衛生習慣や健康意識が高まりウェルビーイング志向が広がる

- 「健康」についての関心は「衛生的な生活/清潔を意識した行動や習慣（手洗い、うがい、消毒など）を心がけている」が81.2%と最多で、「健康管理に関心を持つようになった」が76.4%と続いた。
- 「心の健康を意識するようになった(55.8%)」や「睡眠の量や質を意識するようになった(58.0%)」が過半数を超え、自分の状態を意識的に把握し、時間の過ごし方を見直すことで、より良く生きたいというウェルビーイング志向が広がっている。

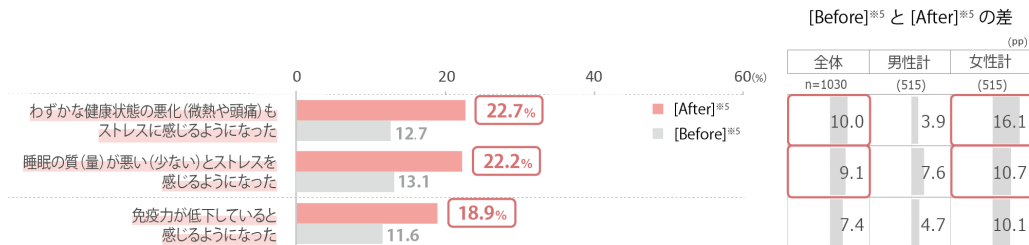


- 「暮らし方」の変化については「外出時など、他人との距離を意識するようになった」が62.6%と最多、続いて「自宅での自由な時間の過ごし方を見直すようになった(60.9%)」「家族の日々の過ごし方に関心を持つようになった(57.9%)」と、自宅で過ごす時間が増えたことで、その時間をいかに快適に有意義に過ごすか、家族とどのように関わるかについて、多くの人が考えるようになった。



### <ストレス・不満> 些細な体調変化でもストレスは大きい

- 現在感じているストレス・不満は「光熱費の高騰」が31.5%と、家計の不安を感じている人の割合がもっとも高く、生活費への影響が極めて大きい。
- 暮らし方（居住空間、家事）についてのストレスでは「部屋が散らかっていること」が21.6%と、光熱費に次いで高い。



- 健康に関する回答も高い傾向が見られ、「わずかな健康状態の悪化もストレスに感じるようになった(22.7%)」、「睡眠の質(量)が悪い(少ない)とストレスを感じるようになった(22.2%)」、「免疫力が低下していると感じるようになった(18.9%)」など、健康への関心と行動が高まっているように、ストレスも高まっている様子がうかがえる。

### <生活の質> 暮らしの日常を丁寧に楽しみたい

- 現在の暮らしで充実していると思うことについては、「美味しい食事をする」が最多の49.3%、次いで「温かいお風呂に入る」、「自分の家でのんびり過ごす」がともに46.4%と、一般的な日常生活の充実感を示す回答が多い。

4. あなたが、【現在】([After]) 日常生活で楽しい・充実していると思うことについて、あてはまるものを全てお選び下さい。  
また、あなたが、【コロナ前(約4年前)】([Before]) 日常生活で楽しい・充実していると思っていたことについて、あてはまるものを全てお選び下さい。

n=30以上の場合

[比率の差]  
 全体+10ポイント  
 全体+5ポイント  
 全体-5ポイント  
 全体-10ポイント

項目	[Before]												[After]												[Before] <sup>*5</sup> と [After] <sup>*5</sup> の差		
	全体	男性						女性						全体	男性						女性						
	n=(1,030)	男性計 (515)	20代 (103)	30代 (103)	40代 (103)	50代 (103)	60代 (103)	女性計 (515)	20代 (103)	30代 (103)	40代 (103)	50代 (103)	60代 (103)	n=(1,030)	男性計 (515)	20代 (103)	30代 (103)	40代 (103)	50代 (103)	60代 (103)	女性計 (515)	20代 (103)	30代 (103)	40代 (103)		50代 (103)	60代 (103)
美味しい食事をする	42.7	35.3	35.9	35.9	34.0	32.0	38.8	50.1	61.2	47.6	47.6	46.6	47.6	49.3	41.9	46.6	44.7	40.8	41.7	35.9	56.7	68.0	56.3	55.3	50.5	53.4	6.6
温かいお風呂に入る	30.3	25.2	21.4	26.2	24.3	23.3	31.1	35.3	37.9	27.2	34.0	38.8	38.8	46.4	41.9	41.7	41.7	34.0	40.8	51.5	50.9	52.4	47.6	47.6	51.5	55.3	16.1
自分の家でのんびり過ごす	32.0	27.8	22.3	22.3	33.0	26.2	35.0	36.3	34.0	29.1	31.1	49.5	37.9	46.4	37.9	35.9	30.1	41.7	35.9	45.6	55.0	48.5	48.5	60.2	60.2	57.3	14.4

## ■ 調査方法概要

調査名：生活者の暮らしにおける価値観変化調査

調査時期：2024年1月11日～12日

調査方法：Web アンケート調査

主な調査内容：大きな社会変化が起きる前（約4年と想定）と比べた生活者の意識について「健康」と「暮らし方（家事・他人との距離・居住空間）」それぞれに設問を設け（あてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・あてはまらない）の4段階で回答

分析対象：20～69歳の同居人のいる男女

（20～50代は、世帯年収400万円以上、60代は世帯年収200万円以上）

サンプル数：1,030（20～60代まで男女均等割付）

## ■ 「SMART STYLE Roomie」新タイプへの反映点

当社が、2024年4月19日に発売した「SMART STYLE Roomie」では、今回の調査結果を、プロダクトコンセプトや空間提案に反映。「日常の暮らしのストレス」をリセットし、自分らしい暮らしをいつまでも安心して楽しめるように、以下の住まいの提案を盛り込みました。

### プロダクトコンセプト：「LIFE Re – Fine for sustainable -自分らしさを研ぎ澄ます-」

#### 自分リファイン

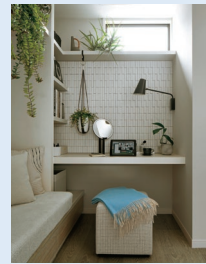
#### こもりながらつながる「マルチプレイス」

##### 「調査結果」

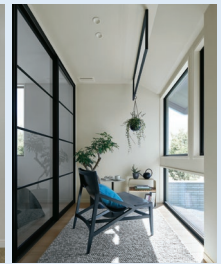
「自宅での自由な時間の過ごし方を見直すようになった」が約6割  
⇒健康意識の高まり、暮らしを丁寧に楽しみたい

##### 「空間提案」

リラックスしたり、趣味に没頭できる空間として、「マルチプレイス」を提案。従来の提案に加え、「マルチプレイス」を他居室と連続させることで、程良い距離で家族とつながる安心感と、心身ともに自分を整える「ひとり時間」の充実を図ります。



「サロン&DEN」



「マルチ スック」

#### 生活リファイン

#### 生活にメリハリをつける、適材適所に配置した「分散収納」「用途別蔵利用」

##### 「調査結果」

「家の中が整理されていないことが気になるようになった」が約6割  
⇒居住空間が整理されることが及ぼすストレスをなくしたい

##### 「空間提案」

2つに仕切り、別々の入り口を設けた「用途別蔵利用」提案により、適材適所に収納がないことへのストレスを軽減。リビング側からは日用品や備蓄品用として、主室側からは季節の衣類や趣味の品など個人のモノを収納。用途にあわせた活用により、片付いた空間を維持します。



日用品・備蓄品など  
リビングから使用する「蔵」



季節にあわせて  
主室から使用する「蔵」

#### 環境リファイン

#### 光熱費を削減するだけでなく、災害時にも自立生活が可能な「レジリエント×LCCM<sup>®</sup>※」

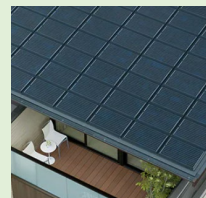
##### 「調査結果」

「光熱費の高騰による、家計への不安を感じるようになった」が約3割  
⇒災害や地球環境負荷への不安を取り除き、常に安心できる暮らしを実現したい

##### 「空間提案」

「いつも」快適に暮らしながら「もしも」に備えられるLCCM仕様と、当社の防災・減災デザイン「MISAWA-LCP」を組み合わせた「レジリエント×LCCM」。環境に配慮しながら、自然エネルギーを有効活用し、より快適でエコな暮らしを実現。インフラが遮断した環境下においても普通の暮らしを維持継続できる電力や備蓄品を確保し、在宅避難を実現します。

※「LCCM」は、(一財)住宅・建築SDGs推進センター（IBECs）の登録商標です



太陽光発電システム



マルチ入力型  
ハイブリッド蓄電システム

【参考】[進化し続ける企画住宅に、自分らしい暮らしをいつまでも安心して楽しめる3タイプが新たに登場「SMART STYLE Roomie」](#)

以上

\* この件に関する問い合わせ先 \*

ミサワホーム(株) 管理本部 広報・渉外部 コーポレートコミュニケーション課 阿部正成 岩井須美佳  
TEL：03-3349-8088 / FAX：03-5381-7838 / E-mail：[koho@home.misawa.co.jp](mailto:koho@home.misawa.co.jp)